

高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成） タイプB 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代 表 校 名 (連携大学名)	徳島大学
事 業 名	四国研究医型入試と Student Lab から始まるシームレスな研究教育環境を活かした難病・希少疾患研究医養成拠点の形成
事 業 責 任 者	徳島大学医学部長・教授 西岡 安彦
事 業 の 概 要	
<p>徳島大学医学部医学科は 2019 年度から総合型選抜入試「四国研究医型」を開始し、基礎研究医に加えて臨床研究医の育成を目指している。入学直後から参加可能な Student Lab には各学年 15~20 名が所属し研究指導及びキャリア支援を受けている。徳島大学病院総合臨床研究センターは治験の 37% を占める「難病・希少疾患」「精神・神経疾患」に強みを有し 3 件の医師主導治験を進めており、本事業では「難病・希少疾患部門」を新設し世界レベルの臨床研究を推進する。学部では、新設する SA 制度により 1 年次より研究室に参画し TA・RA 及び研究室配属（9 か月間）の 3 年生による屋根瓦式の研究指導を受ける体制を構築する。大学院では組織横断的に活動する 6 つの「教育クラスター」に「難病・希少疾患クラスター」を新設し、臨床研究医の育成に連携して取り組む。これらの支援により医師の研究時間の確保を行い働き方改革に資することを目指す。</p>	
推進委員会からの主なコメント	
<p>○：優れた点等、●：改善を要する点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○総合臨床研究センターの強化等、整備しようとする体制が具体的である。 ○難病・稀少疾患に対する既存の取り組みや、症例コホート等をベースに本事業で国際レベルの臨床研究をさらに推進することが期待できる。患者数が少なく企業開発が消極的になりやすい難病・希少疾患に対して、医師主導で研究・開発に取り組むメリットがわかる。 ○原因究明から医師主導治験までを展開し、製薬企業や医療機器メーカーとの協業により新たな診断・治療法・医薬品・医療機器の開発を進めている。 ○医学部生は Student Lab や、本事業で開始する SA 制度、大学院生は「大学院教育クラスター」との連携で人材育成を行っている。 ○臨床研究医育成にも主眼を置く総合選抜入試「四国研究医型」や外国人留学生の確保を行っており、研究医志向のある学生が集う場や低学年から研究に触れる機会を提供している。 ○診療参加型臨床実習の医行為の実施項目を積極的に増やす取組が評価できる。 ○既存の産学連携ネットワークを基盤に他大学や企業との共同研究の推進をするとともに、本事業のホームページを開設し、情報発信を行い、新たなネットワーク構築を目指す計画である。 ○B 水準を A 水準とすることを目指し、大学全体で取り組んでいる。 ○診療参加型臨床実習において、地域の基幹病院に参画してもらうことで大学病院の負担を軽減し、研究時間の確保を目指している。 ○医学部長が事業責任者となり、学内外の各担当者が具体的な役割を持ち、製薬企業、医療機器メーカー等と連携した体制である。 ○年度別の計画が具体的、達成目標に準じた記載となっている。 ●診療参加型臨床実習の充実に関するアウトカムの数値目標、達成時期等の記載が不十分である。 ●事業を運営ならびに進捗を評価する組織体が不明確であり、外部評価についても検討することが望ましい。 ●SA 制度の経費は研究費に影響される予算措置が必要とあるが事業継続の観点との関連性が不明瞭。 ●国際レベルの臨床研究の推進に関する計画が記載されていることが望ましい。 	